

日本学術会議 心理学・教育学委員会

健康・医療と心理学分科会・心理教育プログラム検討分科会（第24期・第6回）
合同分科会 議事要旨

日時 2020年9月24日（木）19:00～20:30

場所 Zoomによるオンライン会議

出席委員

健康・医療と心理学分科会

長田久雄 坂本真士 佐々木淳 佐藤隆夫 重野 純 鈴木伸一 住居広士
丹野義彦 箱田裕司 長谷川壽一 福山秀直 松井三枝 村井俊哉（全員）

心理教育プログラム検討分科会

阿部恒之 長田久雄 楠見 孝 桑野園子 坂本真士 菅原ますみ 鈴木伸一
外山みどり 中島祥好 箱田裕司 宮谷真人
（欠席 遠藤利彦）

審議事項

（1）心理教育プログラム検討委員会にて、次期への申し送り事項を検討した。次期への申し送り事項は以下の通りである。

提言（2）：高等学校の心理学教育の事項を具体化するための方策を、文部科学省初等中等教育局、学会（日本心理学会 教育研究委員会 高校心理学教育小委員会など）、大学、高等学校教員（全国公民科・社会科教育研究会など）などと協力して進める。

1. 授業担当する高等学校の教員に向けての活動
2. 大学における教員養成、キャリアパス拡大に向けての活動
3. 高等学校の生徒に向けての活動
4. つぎの学習指導要領改訂にむけて
5. 公認心理師養成について
6. 高校・大学・市民社会における心理学の貢献について
7. 上記の活動の発信について

（2）健康・医療と心理学分科会にて、次期への申し送り事項を検討した。次期への申し送り事項は以下の通りである。

第1課題 心理学の国家資格に関する活動

(1)今期の提言『未来のための心理学の市民社会貢献に向けて：高等学校の心理学教育と公認心理師養成の充実を』の実現に向けた活動

提言3 公認心理師養成カリキュラムを充実させるべきである

提言4 公認心理師の実習制度や国家試験制度等の適正化をはかるべきである

提言5 公認心理師の能力を発揮できる現場を拡大するべきである

提言6 公認心理師制度見直しの際には日本学術会議の参照基準（心理学分野）を反映させるべきである

(2)新たな提言の発出

今期の提言が公認心理師の養成を中心としたので、次期は公認心理師の専門性と社会貢献についての提言としてはどうか。

第2課題 医学と心理学の連携について

医療分野と心理学分野の交流の方法を考える。

全体での議論の中で、以下の点が提起された。

- ・医療分野では、精神科以外の医療科におけるニーズの掘り起こしが必要である。そのためには、精神科以外でも実習できるようシステムティックに進める必要がある。
- ・ニーズの掘り起こしは、医療以外の分野でも同様である。そのためには、①広く医療系の学会との連携のみならず、②医療ほか、心理以外の連携会員を分科会メンバに推薦、③他の分科会との連携などが考えられる。
- ・保険点数化や公認心理師の採用による費用対効果等も視野に入れて議論する必要がある。
- ・第1課題の議論を活発にして公認心理師のあり方を学術会議として提言するために、新たに「公認心理師の専門性と社会貢献検討分科会」（仮称）の立ち上げることが提案されて、承認された。次期の委員構成が発表された後に、早い時期に検討することとした。

以上